

平成28年度 調布市立石原小学校 学校経営計画

学校教育目標

◎根気よく学ぶ子 ○明るく元気な子 ○なかよく助け合う子

目指す学校像(ビジョン)

「子どもたち一人一人を大切に作る学校」

学校の主役は子どもたちであり、一人一人の子どもが大切にされていると感じ、その中で、豊かな心、確かな学力、健やかな身体が育まれていかなければならない。

子どもに対する教員の愛情を土壌に、子どもたちの「学びたい」「できるようになりたい」という意欲を種として、日々の授業の充実により知・徳・体のバランスのよい成長をはぐくむとともに、子どもたち一人一人の個性を伸ばしていく。

本校の現状と課題

○明るく開進な子どもが多く、学習や行事に前向きに取り組んでいる。学習意欲があるが、都の学力調査においてC・D層の児童も多く、学習内容の定着にはばらつきがある。授業の工夫・充実とともに、個に応じた支援が必要である。
○授業規律や基本的な生活習慣、集団生活の態度を一層身に付けさせるとともに、個別に支援を要する子どもについては、関係諸機関との連携を図る必要がある。
○学力向上や生活指導の充実のために、教師の授業力向上・資質向上が必要である。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	基礎基本を定着させ、 進んで考え表現する児童を 育成する。	学びの基礎となる授業スタイルと授業規律を、全校で共通して整える。	○全校共通の授業規律となる「石原スタンダード」を整備し、徹底する。 ○ユニバーサルデザインを視野に、板書指導やノート指導の共通化を図る。	◇学校関係者アンケートにおいて、学習内容の理解や授業の工夫に関する肯定的回答80%を目指す。
		算数科において、筋道立てて考え、さまざまな表現様式を用いて表現できる力を育成する。	○算数科において問題解決型学習の授業を重視し、思考力・表現力を育てる授業改善を進める。 ○3年生以上では習熟度別指導を行い、グループに応じた課題提示・授業展開等の工夫・改善を進める。 ○授業研究を中心に、校内研究において算数指導における指導法（問題解決学習の展開法、課題提示の工夫、教師の支援法等）を共有し、指導の効果を上げる。	◇「児童生徒の学力向上を図るための調査」において、A・B層を5%増やす。
健全育成	自律した行動のとれる 児童を育成する。	基本的な生活習慣を定着させ、規範意識をはぐくむ。	○生活指導の基本となる「石原小のきまり」の共通理解を図るため、生活指導全体会や毎週的生活指導夕会、月1回の校内委員会を設ける。 ○年間を通したあいさつ運動の取り組みにより、あいさつを定着させる。 ○たてわり班活動による異年齢交流を通して、自分の役割や年少者への思いやりの気持ちを育てる。	◇学校関係者アンケートにおいて、学校のきまりを守ることにに関する肯定的回答85%を目指す。
		安全・安心な学校生活を確立する。	【アレルギー対応】アレルギー対応のルールの実施とともに、正しい知識を全児童に身に付けさせる。 【いじめの根絶】未然防止と早期解決のために、定期的な状況把握、学年・学校での組織的な対応を行う。 【防災教育】防災教育の充実、避難訓練の実施と不断の見直しを行う。 【登下校の安全確保】富士見パトロール隊の協力を得て、登下校の見守りを充実させる。	◇アレルギー事故0を目指す。
健康・体力づくり	健康保持・体力増進のために考え、判断し、実践する児童を育成する。	児童の健康・体力増進への関心を高め、心身のバランスのとれた人間の育成を図る。	【オリンピック・パラリンピック教育推進校の取り組み】（東京都教育委員会） ①実技研修等を通して体育授業の充実を図る。 ②国際理解教育、障害理解教育を推進する。 ③マラソン（持久走）大会、なわとび集会等に全校で取り組む。 ○保健計画をもとに意図的・計画的に保健指導、安全指導を行う。	◇学校関係者アンケートにおいて、心や体の健康に関する肯定的回答85%を目指す。 ◇体力向上に関する肯定的回答85%を目指す。
保護者・地域との連携	保護者・地域との連携・協力を進め、学校の教育活動、児童の安全確保を充実させる。	保護者・地域の方の教育力を組織的・計画的に整備し、教育活動や防災・防犯等を充実させる。	①学習支援：低学年の授業補助、行事の補助 ②教科授業や各種文化事業の講師 ③防災・防犯支援：登下校見守り、防災訓練協力 ④環境支援：学校周辺の美化活動 ⑤「学校と家庭の連携推進事業」の取り組み（東京都教育委員会） スーパーバイザー、支援員を活用し、個に応じた指導・支援を行う。	◇学校関係者評価アンケートにおいて、開かれた学校づくり、学校と地域・PTAとの連携に関する肯定的回答85%を目指す。
		学校の教育理念・教育活動について、地域・保護者の理解・協力を得る。	○保護者会、地区協議会、健全育成委員会、学校開放運営委員会等を通して、学校経営方針や学校の教育活動について、保護者・地域の理解・協力を得る。 ○学校だより、学校ホームページを充実させる。	
特色ある教育活動	子どもたち一人一人の個性を大切に、伸ばしていく。	個々の状況に応じた指導、個性を伸ばす指導を行い、一人一人の児童の学力の定着・向上を図る。	○算数習熟度別指導（中高）、算数TT指導（低）を行い、児童の学習状況に応じた細やかな指導を行う。 ○上学年では、児童の学習状況に応じて算数の課外補習を行う。 ○日本語指導担当教員による授業補助、個別指導を行う。 ○いしむら教室の巡回指導を推進するとともに、その専門的ノウハウを校内で共有し、校内通常学級での指導・支援を充実させる。	◇学校関係者評価アンケートにおいて、児童の学習意欲に関する肯定的回答80%を目指す。
		文化文芸活動を通して、児童の興味関心を広げ、「豊かな心」と「確かな学力」の基礎を醸成する。	○日々の図書指導と読書週間を軸に、読書活動を充実させる。 ○児童の知的関心を高める文化行事（演劇鑑賞等）を発達段階に合わせて実施する。 ○読み聞かせ、調べ学習、出前授業等を行う。	